

各教科等チェックシート

| | | |
|--------|-------|--------------|
| 学部・学年 | 氏名 | 中学部・高等部・中学校版 |
| 中学部・〇年 | 〇〇 〇〇 | |

| 教科等 | 内容 | 知的障害がある児童生徒 | | | | | 知的障害がない児童生徒 | | | | | | | 備考 | | | | |
|---|---|-------------|---|---|---------|---|-------------|---|---|---|---------|---|---|----------|----------------|---|---|---|
| | | 小学部(段階) | | | 中学部(段階) | | 小学校(学年) | | | | 中学校(学年) | | | 具体的な指導内容 | 指導場面 教科・単元等 | | | |
| | | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | | | 2 | 3 | |
| 生活 (特別支援学校) 生活科 | ア 基本的生活習慣 イ 安全 ウ 日課・予定 エ 遊び オ 人との関わり カ 役割 キ 手伝い・仕事 ク 金銭の扱い ケ きまり コ 社会の仕組みと公共施設 サ 生命・自然 シ ものの仕組みと働き | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 国語 ※ (特)2段階 同観点 | 知識及び技能 A 聞くこと・話すこと B 書くこと C 読むこと | | | | | | | | | | | | | | | | | ● |
| 社会(中 地歴公) 社会 | 知識及び技能 ア 社会生活のきまり イ 公共施設と制度 ウ 地域の安全 エ 産業と生活 オ 我が国の地理や歴史 カ 外国の様子 | | | | | | | | | | | | | | | | | ● |
| 算数・数学 ※ (特)2-3段階 同観点 | A 数と計算(中学校 数と式) B 図形 C 測定(中学校 関数) D データの活用 数学的活動(中学校・中学部) | | | | | | | | | | | | | | | | | ● |
| 理科 (小学校3～6年 A 物質・エネルギー B 生命・地球) 音楽 | A 生命 B 地球・自然 C 物質・エネルギー A 表現 B 鑑賞 | | | | | | | | | | | | | | | | | ● |
| 図画工作 (中 美術) 技術・家庭 (小学校 家庭) 職業・家庭 (中学部) 保健体育 (小学部 体育) 体育 | A 表現 B 鑑賞 A 家族・家庭生活(中 技術分野) B 衣食住の生活(中 家庭分野) C 消費生活・環境 A 職業分野 B 家庭分野 A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上運動 D 水泳運動 E 球技 F 武道 G ダンス H 保健 | | | | | | | | | | | | | | | | | ● |
| 外国語 | 知識及び技能 思考力・判断力・表現力等 | | | | | | | | | | | | | | | | | ● |
| 外国語活動 ※(2) | | | | | | | | | | | | | | | | | | ● |
| 特別の教科道徳 ※(1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | ● |
| 総合的な学習の時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ● |
| 特別活動 | | | | | | | | | | | | | | | | | | ● |

記載者より
 本生徒の場合、すべて学年相応のところにチェックが入った。基本的に中学校学習指導要領に準じた指導内容であるため、備考欄への記載は不要と考えた。しかし、生徒の学力について全教員で共通理解するシートとしてとても有効であると感じた。

※(1) 「外国語活動」：知的特別支援学校の小学部において、必要に応じて設けることができる。
 ※(2) 「特別の教科 道徳」：小学校に準ずる(原則同一、他配慮事項あり。)

自立活動フローシート

学部・学年 中学部〇年 氏名

自立活動フローシートの作成が後期の個別の指導計画の作成につながった例です。
この事例では、下線部(A)→(F)、下線部(a)→(f)、以上2つのつながりに注目してください。

発達の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|----------------------------------|------------------------------|--|---|---|---|
| ・自己の疾患や視覚障害の程度、してはいけないことを理解している。 | ・視力は変化なく、情緒は安定して毎日明るく過ごしている。 | ・相手と話し合いをするのが苦手だったが、最近は相手の意見を聞きながら話を進めることができるようになってきた。 | ・正しく東西南北の方向やクロックポジションを理解している。 ・校舎内は自由に移動できる。自力下校へ向けて屋外歩行の範囲を広げている。 | ・基本的な動作はできるが、バランスが悪く体が硬い。(幼児期に股関節脱臼あり。) ・机で学習するときに姿勢が悪く、猫背になりがち。 | ・一方的に自分の話をしたり、話しが盛り上がりすぎることがある。(やや右耳の聞こえが悪い。) |

いくつかの指導目標の中で優先する目標として

| | |
|----------|---|
| 3年後にめざす姿 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校と自宅との間で自力で登下校できる。(A) ・学校外でもルールやマナーを守って行動できる。(a) |
|----------|---|

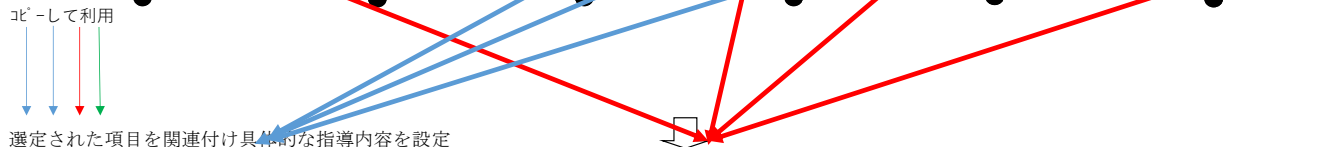
「実態把握」ではすべての欄に記入をしたが、重点的な課題は「環境の把握」、「コミュニケーション」に記載した内容であると考え、「3年後にめざす姿」、「長期目標」に記載した。

長期目標(年間)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校から自宅までの自力下校に向けて、自力歩行ができる範囲を広げる。(B) ・社会に出たときを意識した一般常識やルール、マナーを身に付け、適切なコミュニケーションをとることができる。(b) |
|---|

指導目標を達成するために必要な項目の選定

| | 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|-------------------|-----------------------------|--------------|----------------------|---------------------|--------------------|-----------|
| ①生活のリズムや生活習慣の形成 | ①情緒の安定 | ①他者とのかかわりの基礎 | ①保有する感覚の活用 | ①姿勢と運動・動作の基本技能 | ①コミュニケーションの基礎的能力 | |
| ②病気の状態の理解と生活管理 | ②状況の理解と変化への対応 | ②他者の意図や感情の理解 | ②感覚や認知の特性への対応 | ②姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 | ②言語の受容と表出 | |
| ③身体各部の状態の理解と養護 | ③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ③自己の理解と行動の調整 | ③感覚の補助及び代行手段の活用 | ③日常生活に必要な基本動作 | ③言語の形成と活用 | |
| ④障害の特性の理解と生活環境の調整 | | ④集団への参加の基礎 | ④感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握 | ④身体の移動能力 | ④コミュニケーション手段の選択と活用 | |
| ⑤健康状態の維持・改善 | | | ⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 | ⑤作業に必要な動作と目的な遂行 | ⑤状況に応じたコミュニケーション | |



具体的な指導内容

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・路地を発見して確実に停止すること。 ・方向を維持して路地を横断すること。 ・歩道に乗り上げ、点字ブロックを見つけるなどして自分のいる場所を確認すること。(C) | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の聞こえの状態を正しく理解すること。 ・自分が聞きやすい姿勢と、他人から見ておかしくない姿勢を理解すること。 ・他人との距離と自分の声の大きさを状況によって調整すること。(c) |
|--|---|

指導場面(各教科・単元名)

| 教科等 | 単元名等 | 教科等 | 単元名等 | 教科等 | 単元名等 |
|------|------|-----|----------------|-----|------|
| 自立活動 | 歩行指導 | 各教科 | (各単元で姿勢や声量を指導) | | |

※ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)より抜粋及び参照。

令和元年度 中学部 後期 個別の指導計画

| | | | |
|-------|----|-----|--|
| 学年・学級 | 氏名 | 担任名 | |
|-------|----|-----|--|

| | |
|------|---|
| 年間目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分で学習の目標や計画を立て、自主学習を進めることができる。 ○社会に出たときを意識した一般常識やルール、マナーを身に付け、適切なコミュニケーションをとることができる。(d) ○身体全体や部分の適切な使い方、動きを身に付ける。正しい姿勢を意識して、学習や食事をすることができる。 ○学校から自宅までの自力下校に向けて、自力歩行ができる範囲を広げる。(D) |
|------|---|

| | 目 標 | 手立 て | 達 成 状 況 |
|---------|--|---|--|
| 学習面での支援 | <ul style="list-style-type: none"> ○入学選考に向けて意欲をもって計画的な学習ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○大まかな計画や目標を本人とたて、必要に応じて各教科担当から助言をしてもらいながら、受験に向けた学習ができるよう支援する。 | <div style="border: 2px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> <p style="color: red; margin: 0;">開発者より</p> <p style="margin: 0;">このように、自立活動フローシートを活用するなどして、実態把握から具体的な指導内容を設定する手続きの中で、指導すべき課題を整理することが、目標設定の根拠となります。</p> </div> |
| 生活面での支援 | <ul style="list-style-type: none"> ○箸の使い方を意識しながら、時間内に給食を一定量食べることができる。 ○正しい姿勢や立ち居振る舞いを学校生活で意識して過ごすことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○コロッケなどの柔らかいメニューが出た時には箸で一口大に切る練習をするよう言葉がけする。 ○時間を意識できるよう言葉がけする。 ○顔が下にうつむきがちの時や、話し相手のいる時には、姿勢を正したり、相手の方に顔を向けたりすることが大切だということを伝える。 | |
| 自立活動 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校～○駅改札までの安全な歩行を目指す。(E) ○相手のことを考えながら、適切なコミュニケーションが取ることができる。(e) | <ul style="list-style-type: none"> ○歩行訓練士の協力のもと、安全な歩行を目指し、定期的に歩行練習に取り組んでいく。(F) ○自分の好きな話題だけでなく相手のことを考えた話題の振り方に気づけるよう助言する。 ○適切な声の音量を伝えていく。(f) | |

1 単元名 「関数 $y = ax^2$ 」

2 単元設定の理由

本単元は、中学校学習指導要領「第2章 各教科 第3節 数学 第2 各学年の目標及び内容」の以下の記述に基づいて設定したものである。

第3学年 2 内容 C 関数

- (1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通じて、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばす。
- ア 事象の中には関数 $y = ax^2$ としてとらえられるものがあることを知ること。
 - イ 関数 $y = ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。
 - ウ 関数 $y = ax^2$ を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。
 - エ いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解すること。

本単元のねらいは、既習である比例の関数、反比例の関数に加え、関数 $y = ax^2$ を新たに学習して関数への理解を深めることである。直前の単元である2次方程式では x^2 について学習しており、自然な流れで $y = ax^2$ を扱う本単元の学習を進めていくことができる。

本学習グループは、中学部〇年〇学級の生徒〇名で構成されている。本生徒は、点字盤や盲人用算盤を使用して、難易度の高い計算や2次方程式を解くことができる。また、盲人用定規を用い物の長さを測ったり、点図のグラフを読み取り座標を求めたりすることができる。中学校第〇学年の内容を理解できているが、視覚障害のため触察での図形の読み取りに時間がかかり、図形を回転させるなどの操作が加わると理解が難しい場合がある。

本単元では、 x に比例する関数の知識を元に、 x^2 に比例する関数がどのようなものであるか、どのような性質があるかについて学習を進める。特に、座標平面上のグラフがどのような形状であるかを理解することは重要である。教科書の点図でグラフを触るだけでなく、自分でグラフ上に座標をとってグラフを作成するなど、様々な活動を通して理解を促していく。グラフの形状を理解した上で、グラフの変域や2点間の傾きを求める技能を習得することを目指す。比例・反比例のグラフで学習した変域や傾きの考え方を関数 $y = ax^2$ へ応用する数学的な見方に気付かせたい。

単元の後半には、身の回りからいろいろな関数関係を見だし、グラフなどを用いて特徴を調べる。障害の特性から運動や位置などが確認しにくい事象については、音が出るものを転がして位置を調べるなど、音声や触覚によって事象をとらえる工夫が必要である。本時の指導は、図形を構成するタイルの段数と枚数が2乗に比例する関係であることに気付き、表やグラフなどで表すことを目標として設定した。点図で示された模式図のみでなく、実物のタイルを用意して図形関係や数量関係を触覚で確認できるよう工夫する。自ら手を動かして図形を形作る操作を通して、自ら考え関数関係に気付くように指導していきたい。

3 単元の目標

- ・様々な事象を関数 $y = ax^2$ として捉えたり、表、式、グラフなどで表したりするなど、意欲的に数学を問題の解決に活用しようとする。【数学への関心・意欲・態度】
- ・関数 $y = ax^2$ について、事象に潜む関係や法則を見いだしたり、数学的な推論の方法を用いて論理的に考察し表現したりする。【数学的な見方や考え方】
- ・関数 $y = ax^2$ の関係などを、表、式、グラフを用いて的確に表現したり、数学的に処理したりする。【数学的な技能】
- ・事象の中には関数 $y = ax^2$ などとして捉えられるものがあることや、関数 $y = ax^2$ の表、式、グラフの関連などを理解する。【数量や図形などについての知識・理解】

4 指導計画 総時間数：16時間

- 1) 2乗に比例する関数 2時間
- 2) 関数 $y = ax^2$ のグラフ 5時間
- 3) 関数 $y = ax^2$ の変域と値の変化 4時間
- 4) 関数 $y = ax^2$ の利用 5時間 (本時：14 / 16時間目)

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- 身の回りにはいろいろな関数関係があることに関心を持ち、表やグラフなどを利用してその特徴を考える。【数学への関心・意欲・態度】
- 具体的な事象の中から見いだした関数関係を、表やグラフなどで表す。【数学的な技能】

(2) 生徒の様子と目標

| 生徒名 | 生徒の様子 | 目標 | 手立て |
|-----|---|--|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・座っていると徐々に姿勢が崩れてくる。 ・教材などを触り、細かな部分に気をとられて課題を進められないことがある。 ・因数分解や解の公式を利用して2次方程式を解くことができる。 ・時間がかかるが、触察により図形関係を把握することができる。 ・数式や表を読み、数値を方眼紙上に示すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を崩さずに授業を受けられる。 ・示された課題に集中して取り組むことができる。 ・関数$y = ax^2$の式の値を計算することができる。 ・図形関係を正確に把握することができる。 ・計算した数値を方眼紙上にシールで貼ることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢が崩れた時に声をかける。 ・課題以外に気を取られたら、一度手を止めるよう言葉をかける。 ・必要に応じて盲人用算盤を使用する。 ・点図以外に触って理解しやすい形状、大きさの教材を用意する。 ・座標を読みやすい大きめの点字方眼紙を用意する。 |

(3) 本時の展開

| 時配 | 学習活動と内容 | ・指導・支援上の留意点 ◇教科の評価 ◎視覚障害に配慮した留意事項 | 備考 |
|----|--|---|--|
| 20 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 ・教科書の問題を読み上げ、本時の学習問題を知る。(資料①) ・問題に示された形に三角タイルを並べる。(資料②) <p>※机②へ移動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・xとyの関係をグラフにし、問題(1)を解く。(資料④) ・(1)で求めた答えが正しいか確認する。 ・xとyの関係をグラフにし、問題(2)を解く。(資料⑤) ・(2)で求めた答えが正しいか確認する。 ・問題(3)を解く。 ・まとめをする。「タイルの総数は段数の2乗に比例した」 | <ul style="list-style-type: none"> ◎生徒が操作をする机にはスチールボードを置く。タイルなどをマグネットで固定し、触察の際にずれにくいようにする。 ・題意が理解できたか口頭で確認する。 ・まずは2段の三角形を作るよう助言する。 ◎うまくいかない時は、厚紙の「大きな三角形」の上に三角タイルを敷き詰めていく方法を提案する。(資料③) ◎グラフの形状が分かりやすいように、生徒が貼ったシールの上にゴム紐を張る。 ◎生徒が実際に触って数を確認できるように5段目まで三角タイルを並べる。 ・グラフの形状が直線であるかどうか気付くように言葉をかける。 ◎作成したグラフの形状が直線であることを判断するために定規を用意する。 ◎生徒が実際に触って数を確認できるように5段目まで三角タイルを並べる。 ・「x段目のタイルの数」と「タイルの総数」で計算式が異なる点を助言する。 | <p>点字教科書 三角タイル 厚紙の正三角形</p> <p>点字方眼紙 シール ゴム紐 定規</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・問題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>三角形(小)と三角形(大)の面積比を求めよう。</p> </div> | | |

| | | | |
|----|---|---|--|
| 20 | <ul style="list-style-type: none"> 渡された厚紙の正三角形（小）と（大）の面積比の求め方を考える。（資料⑥） （予想される生徒の反応） 「辺の長さを測って比べる」 「わからない」 厚紙の正三角形の辺の長さを測る。 式と答えを発表する。 答えが正しいか確認する。 <ol style="list-style-type: none"> 三角タイルを並べて個数を数える。（資料⑦） 厚紙の重さを量る。 （類題を解く） まとめをする。「正三角形の面積は辺の長さの2乗に比例した」 | <ul style="list-style-type: none"> ◇辺の長さや面積などの関数関係に注目し、面積比を考えることができたか。 「わからない」という反応だった場合は、「辺の長さを測ってみよう」「三角タイルを並べて考えよう」と提案する。 ◎長さを測りやすいように厚紙をマグネットで固定する。 ◇具体的な数値から関数関係を利用して面積比を計算することができたか。 同じ厚紙ならば面積と重さが比例することを説明する。 ◎音声秤を利用する。 時間に応じて類題を解き、定着を図る。 面積比と面積は異なることを強調する。 | <p>厚紙の正三角形</p> <p>盲人用定規</p> <p>三角タイル 音声秤</p> |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> 質問を聞く。 「正六角形でも面積は辺の長さの2乗に比例すると思うか。」 自分の考えを述べる。 厚紙の正六角形を使い、面積比を調べる。（資料⑧） まとめをする。 挨拶をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 厳密な証明は求めない質問であることを伝える。 ◇三角形に関連付けてその他の図形の面積の特徴を考えることができたか。 ◎生徒が触って数を数えられるように、厚紙の正六角形の上に三角タイルを並べる。（資料⑨） 一般的な図形の面積比は次単元の「相似な図形」以降で扱うことを告げ、生徒の興味関心を高める。 | <p>三角タイル 厚紙の正六角形</p> |

(4) 評価

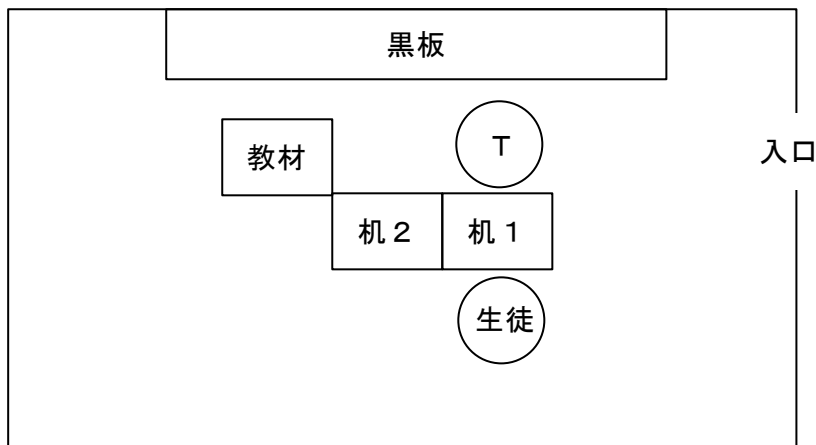
○身のまわりにはいろいろな関数関係があることに興味をもち、表やグラフなどを利用してその特徴を考えることができたか。【数学への関心・意欲・態度】

○具体的な事象の中から見いだした関数関係を、表やグラフなどで表すことができたか。

【数学的な技能】

6 備考

(1) 配置図



※操作の時には
適宜机 2 を使用

(2) 資料

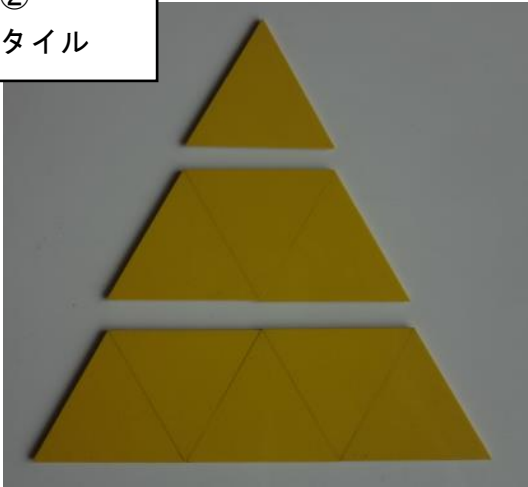
資料①
教科書の問題

右の図のように、同じ大きさの正三角形のタイルを並べて、大きな正三角形をつくっています。次の問いに答えなさい。

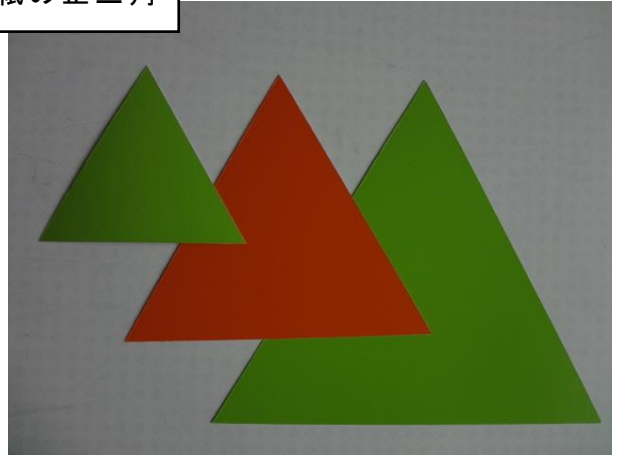
- (1) x 段目のタイルの数を y 枚として、 y を x の式で表しなさい。
- (2) x 段目までのタイルの総数を y 枚として、 y を x の式で表しなさい。
- (3) 10 段目までのタイルの総数を求めなさい。

※図は省略

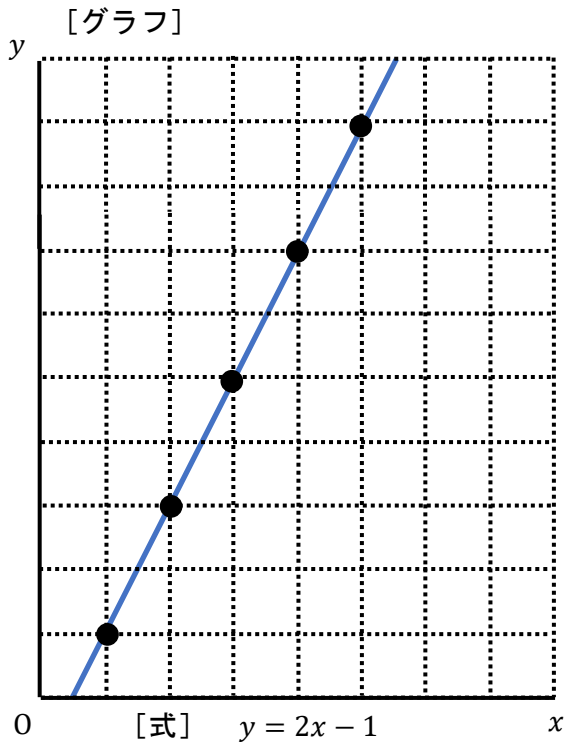
資料②
三角タイル



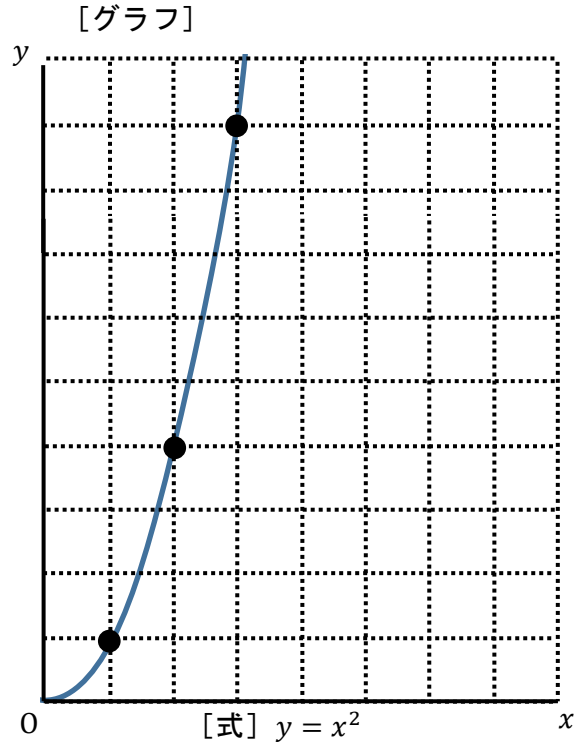
資料③
厚紙の正三角



資料④
(1) で予想される生徒の解答

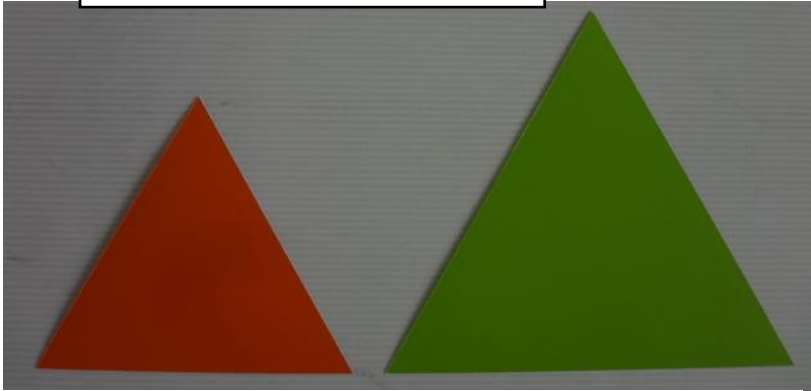


資料⑤
(2) で予想される生徒の解答



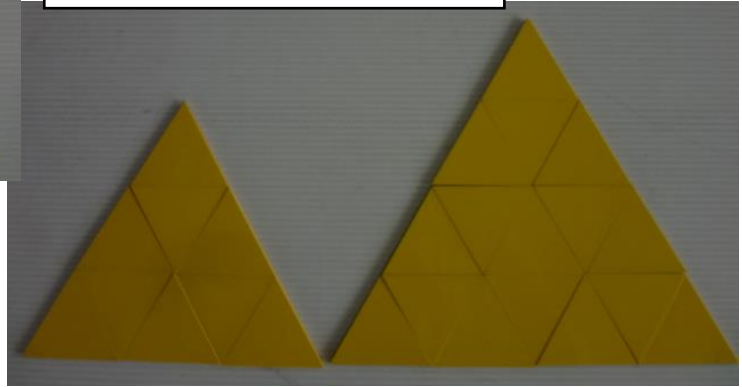
資料⑥

厚紙の正六角形（小）と（大）



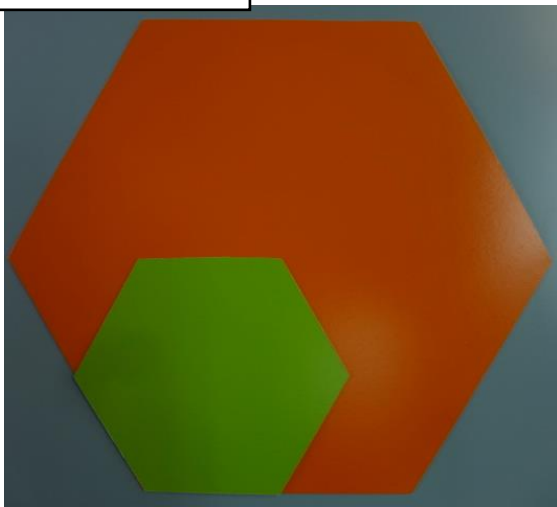
資料⑦

三角タイルを並べた
厚紙の正六角形（小）と（大）



資料⑧

厚紙の正六角形



資料⑨

三角タイルを並べた厚紙の正六角形

